

世界旅打ち気分

●第82回・アイルランドの2競馬場

須田鷹雄



写真1) ネース競馬場のレース風景



写真2) ネースもアイルランドらしく風景が広い



写真3) レパーズタウンのパドックからスタンド背面を望む

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

今回はアイルランドの競馬場を2つご紹介しようと思う。ともに2019年、グリーンチャンネルのロケで訪問した競馬場だ。実は筆者はアイルランドの競馬にはもともとそこまで詳しくはなく、この原稿を合田さんに見られたらどうしようというレベル。それゆえ渡航前にはアイルランド競馬についてみっちり予習し、現地では間違っていないと確信できることだけを喋るといって作戦に徹した。

ロケの最初に行ったのがネース競馬場。ダブリンから見ると西南西に18マイルほど、車なら1時間はかからない感じだ。ダブリンからはバスで行くこともできるらしい。

ネース競馬場は1924年開場とのことなので、日本でいうと大正末期。欧州の競馬場としてはそこまで古株というわけではない。時期によって障害開催と平地開催があり、筆者たちがロケに行ったのは平地開催。ただ、ここで行われる重賞競走は圧倒的に障害のほうが多い。この原稿を書くにあたって調べたが、現在平地のブループレスはG3ブルーウィンドSだけのよう。英愛オークス馬で、繁殖牝馬

として日本に輸入されたブルーウインドを記念した3歳牝馬限定のG3である。

重賞がなくてもこの平地開催の価値が低いというわけではなく、ダブリンから近いこともあってそれなりのレベルの馬が出てくる。後の活躍馬のキャリア初期を振り返るとこの競馬場が出てくることかしばしばある。仮にアイルランド観光のついでにこの競馬場に行か行けなかったとしても、知っている騎手や調教師、知っている勝負服を見ることはできるだろう。

このネース競馬場、一般ファンのスタンドと馬主など関係者の建物がそれぞれこじんまりと建っているだけだが、入場門などを含め建物には紺に近い青のデザインで統一されており、非常に見た目がよい。コースは左回り1周1.5マイルで、3角と4角にシュートがあり、5ハロン戦・6ハロン戦は直線で行われる。さすがアイルランドの競馬場というか、敷地は広く、景色も広い。写真の2枚目にはスタンドから遠いところで輪乗りを行う馬たちの様子を載せておいたが、奥の森や丘を含めて景色の広さがお分かりいただけることだろう。

ちなみにこの写真の左側、コースに囲まれた内馬場には牛が放牧されている。日本でも笠松競馬場やかつての三条競馬場は内馬場が畑として利用されていたが、牛を放つただけでどこか良い雰囲気になるのはさすがアイルランドというところだ。

このネース競馬場ではアイルランドに着いて最初のロケ地ということで緊張していたのだが、幸いにも順調にロケが進み、貴重な体験もできた。ひとつは口取り。競馬場の人が「次のレースを勝った人に、口取りに入れてもらえるように頼んであげる」と段取りしてくれたのだが、勝ったのはジム・ボルジャー調教師が管理し、夫人のジャッキー・ボルジャーさんが所有する馬。ボルジャー師はあのエイドン・オプライン調教師の師匠にあたる人である。思わぬ大物との遭遇にたじろいだ。ボルジャー夫妻はにこやかに私と梅田陽子を迎えてくれた。私もロケを中心に世界のあちこちで「自分と関係ない馬の口取り」に入ってきたが、その調教師としては一番の大物だろう。

もうひとつは買い物。ネース競

馬場にギフトショップはないのだが、小さな露店を出して自作のカフスポタンなどを売っているおじさんがいた。1セット1万円ほどで買うかどうか悩んだのだが、一期一会を大事にしようということで購入。馬の蹄(蹄鉄)だけでなく蹄そのものをミニチュア化したデザインのものもカフスポタンは、いまでもよく使っている。

そしてこのおじさんとは思わぬ再会があった。今回ご紹介するもうひとつの競馬場、レパーズタウン競馬場に行ったときのことである。レーシングポストを買おうとしたら、売り子のおじさんが色々話しかけてくる。よく見たらネースのカフスポタンおじさんだった。日によって商売が違うらしい。

このロケで覚えているのが、食べ物撮るくんだり。他の競馬場にはなく、アイルランドらしさのあるものを撮りたいわけだが、場内を物色していると「100%アイルランド産牛肉」を謳ったハンバーガー屋があった。しかも空いている。これはおあつらえ向きだということ撮ることにしたのだが、その時アイルランド人のカメラマンさんがぼつりと言、「たぶんマズいよ。アイルランド産牛肉100%を謳っているのに?」...結果は、アイルランド人の言うとおりだった。番組上おいしい設定で撮ったか素直にマズいとしたか忘れてしまったが、まあ現実はそのとおりである。この時はロケに手間がかかり写真などがあまり撮れなかったため、いつか再訪したい競馬場だ。

レパーズタウンはシンエンペラーが出走した愛チャンピオンSで皆さんにもおなじみだろう。ダブリンの南6マイルほどのところに位置する。ダブリンから路面電車に20分ほど乗り、開催日はその駅からシャトルバスが運行されるようだ。レパーズタウンも平地と障害の両方を行う競馬場で、入場門を入つてすぐのところには障害の名馬、ハリケーンフライの像が立つ

ている。この原稿を書くにあたり調べたら2017年にできた像だそう。ロケ時はまだ出来立てに近かったようだ。

ハリケーンフライは平地10戦2勝、障害32戦24勝の名馬。アイルトンチャンピオンハードル5連覇など、数々の大レースに優勝した。

そして先述したようにアイルランド音痴の私だが、ロケにおいては以上のような説明を滞りなくできたのである。というのも、別日にロケに行く愛ナショナルスタッドファームには引退名馬の繋養施設があり、ハリケーンフライは引退後そこで暮らしている。カメラの前で対面したときに説明できるよう、こりこりに予習してあったのだ。逆にナショナルスタッドファームで案内してくれる人に対しては「この馬、レパーズタウンに銅像ありますよね。みたいなトークを仕掛けるわけ、我ながら知ったかぶりロケもいいところだ。

レパーズタウンは左回りで1周1マイル6ハロン。東京競馬場より800mほど長いわけだからだいぶスケールは大きい。カラ競馬場が1ターンの2マイル戦ができる恐